

# HV金属部品に参入

## ベンダ工業 開発や実験拠点増強

ハイブリッド車の金属部品の  
生産ライン



自動車部品製造のベンダ工業(呉市)は、ハイブリッド車(HV)の金属部品の生産に乗り出した。呉市苗代町の本社工場に専用のラインを設置。さらに開発拠点を建て、2年後にはH

V向けを中心に新規事業の売り上げを全体の1割に高める。新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ生産の回復を図る。

HVの走行時に、モーターからエンジンに動力を切り替えるためのリング状の鉄製部品を4月から生産している。専用ラインは自動製造の2本で、年度内は12万個を造る計画。来年夏までに2本増やし、22年度に36万個を目指す。前工程を担う東広島工場(東広島市)

の設備も増強する。研究開発や実験の拠点施設は本社敷地内で来年2月に着工し、12月に完成させる。3階建て延べ約2400平方メートルで本社機能を移し、自社の技術や歴史を紹介する取引先向けのスペースも設ける。事業費は7億円。

同社は独自の金属曲げ加工の技術を生かし、エンジンの始動に必要なリングギアなど歯車形の部品を年間約2100万個製造。マツダなど国内外のメーカーに販売し、世界トップシェアを誇る。リングギアに別の部品を組み付ける工程も担い、自動車メーカーへの直接納入を増やしてきた。

ただ、新型コロナウイルスで2021年3月期の連結売上高は115億円と、過去最高だった2年前の148億円から2割減の見通し。HV向けなどで盛り返し、23年3月期は155億円の目標を掲げる。八代一成社長は「当面はHVが電動化の主流になる。受注を進めていく」と強調。車以外の収益源の拡大も視野に入れている。(村上和生)

